



折り紙のくす玉を作る利用者さん 撮影：長田尚久（経営企画課）

《症例検討・112》

ある時期の危機

院長 清水 允熙

今回は、八十五歳の男性Kさんの例です。症状は以下の通りです。

症状

Kさんは、五年前頃より外出が少なくなり、趣味のダンスにも参加しなくなり、記憶も不確かになり始めました。

二年前頃より「殺される」「助けてくれ」「家に誰かがいる」「盗られる」「おかねを盗られたから生活ができない」などと訴えるようになりました。夜を怖がり、押し入れをあけるのを恐れたりもしていました。その後、トイレがわからず、たれ流しの状態となりました。また、あてもなく歩き回るようになりました。

ゴミ箱のゴミをつかんで投げたりして通行人を威嚇したりもしました。介護者に逆らい興奮しやすくなりました。そのため、某病院へ入院しました。しかし、症状は改善しませんでした。

以上の経過で、平成八年六月当院へ入院となりました。

入院当時の問題症状は次のようでした。

- ① 自分の部屋を覚えられない。
- ② オムツを使用しなければならぬ(大小便の失禁)。
- ③ 服を脱いでしまう。
- ④ 他人の物と自分の物の区別がつかない。
- ⑤ 妻など家族の顔がわからない。
- ⑥ 言葉の意味がわからない時がある。会話が成立しない。

## 生活歴

Kさんは五人兄弟の第一子として出生。父親は公務員。理科系の大学を卒業後、助手として教室に残り後進の指導にあたりました。

助教授となりましたが、四五歳頃に転職。某製薬会社の研究室の責任者となりました。製薬会社退職後は出身大学その他で講師などをしていました。

子供は女・女・男の三人。性格は真面目で穏やか。趣味は若い頃は山登り、ダンスなどでした。

老後は妻と二人だけの生活を

続けていました。妻は現在、認知症の最重度の状態です。某病院へ入院中です。

## 経過

Kさんのように、認知症の配偶者を介護しなければならぬことよって、戸惑いと絶望感に苦しめられ、また希望のない日常生活に疲れきって、認知症を進行させた高齢者はあまり治療経過が良くありません。明日という日が今日よりも恐ろしい日になることを身にしみて経験しているからです。

## メモ1

Kさんが二年前頃に「殺される」「盗られる」と、不穏な様子を示したのはなぜでしょうか。

過去の経験から影響を受けているとすれば、どのような出来事があったのでしょうか。

私たちの病院では、「認知障害の症状はその人の経験と無関係なものはない」として「この経験が、『認知症』出現の時期を早めることがある」と考えてい

ます。

○小さな子供を亡くしたことがある。

そして、この経験による心の傷を癒すこと、考え方を修正することが、高齢者の不穏・興奮状態を消失させ、「認知症」の進行を抑えたり、改善を可能にすることが多いと考えています。

○両親や兄弟を早い時期に亡くした。

○脅迫・恐喝などをされたことがある。

○手柄を人に取られたことがある。

○教授の椅子、会社重役の椅子などを争ったが敗れたことがある。

○夢・希望を達成できなかった。

○おかねにこだわりを持つ考え方をしていた。

○実際におかねを盗られたことがある。

Kさんは、このような不安や恐怖の日々に『老化』が加わることよって、認知症をどんどん進行させてしまったと考えられます。

さて、何かを『失うこと』に関する経験、つまり認知症が進行する以前のKさんの喪失の経験としては次のようなことが一般的に考えられます。

○愛した女性と結婚できなかった。

しかしKさんは、これらについて心に傷が残るほどには経験しなかったようです。

では、Kさんの認知症の症状の原因とは何だったのでしょうか。

実は原因は妻でした。

Kさんは、妻と二人で暮らしていました。その妻は、夫よりさらに二〜三年前から認知症の症状を呈し始めていたのです。

妻の症状は「家に誰かがいる」「誰かにおかねを盗られた」の頻繁な訴えでした。そのようなときKさんは「そんなことはないよ」とやさしく否定していたようです。

しかし、妻は夫の説明など聞く耳を持つてはいませんでした。二人は口論になるのが常でした。その度に、怒った妻は夫であるKさんに「我慢できない、殺してやる」と叫んだそうです。この頃、妻の認知症は中程度もかなり進行した状態でした。

また、この頃はKさんも認知症の初期状態に足を踏み入れそうになっていたと推測される時期です。夫婦は感情的にも理性的にも不幸な状態にあったのです。

さらに時が経過しました。妻の認知症はさらに重度へと進行し、前述の訴えはもうなくなっていました。しかし、妻の認知症の症状に影響されたKさんに、妻の症状が出現してきまして、Kさんが「おかねを盗られた」と訴え始めたのです。

したがって

①妻の認知症の軽度状態がKさんの夢や希望を打ち砕き、生活を不便にし、Kさん自身を認知症への準備状態へ陥らせたこと。

②その後、認知症が中程度～重度に進行した妻との生活による困惑と絶望の日々が、Kさんを軽度の認知症へ導いたこと。

③Kさんの認知症がさらに進行したとき、妻の症状に影響された症状を示したことで、などが考えられました。

Kさんの中度認知症の症状は、妻の症状のコピーだったのです。そしてさらに進行したKさんの認知症は、現在は重度となり、入院ということになりました。

## メモ2

この症例からわかることは、私たちが年をとってからの『ある時期(体力・知力・気力などの衰えが出現してくる時期)』には「配偶者の認知症の症状に強く影響されることがある」「認

知症へ誘導されることがある」そして「その人が認知症に陥ったとき、かつて経験した配偶者の症状に影響された症状をつくりあげることがある」ということです。

認知症の高齢者をその配偶者だけで介護させ続けることは、このような『ある時期』の配偶者にとつては危険なことです。

このような場合、認知症に陥った人の配偶者が、介護のための協力者に恵まれていたり、肉体的にも、精神的にもまだ若々しく健やかな状態にあれば、あまり問題はないようです。

むしろ、認知症に陥った配偶者を介護することにより、前にも増してしつかりすることが多いのです。

しかし、協力者を持たず、さらに介護する配偶者が寄る年波に押し流され、気力のある健全な状態と認知障害の状態との中間の位置、つまり、生理的に脳の働きがかなり低下した状態にある場合はよいことはありません。

これを私たちは『ある時期の危機』と表現しました。

Kさんの場合も、脳の働きが低下した時期に認知症の妻と二人だけの生活を続けていました。妻の「おかねを盗られた」「泥棒が家の中を覗いている」「家に誰かがいる」などの日々の繰り返し発言が、呪文でもかかっているかのように、衰えてきていたKさんの考えを拘束してしまつたと考えてよいでしょう。

家族は「父も最初のうちは『そんなことはないよ』と、母のこつとを優しく訂正していたのに」と繰り返し訂正しており、父に母をまかせきりしていたことを子供たちは反省していました。

Kさんの優しさが妻の症状の後を追わせたのかもしれない。Kさんの妻への優しさは一心同体の『優しさ』なのでしょう。



## 優しいってなんだろう

副院長 清水隆志

今年の春、認知症に対する薬剤がアメリカにて承認されたという報道が流れた。新しい薬剤が承認されることは、非常に喜ばしいことだ。

ただ、新しい薬剤が承認されたからといって、認知症の人たちに対して現在の看護介護に変化があるかというとはそれはないと考える。

やはり、ご本人の訴えを聴くことは認知症のさまざまな症状改善には必要だ。そして、それを担うのは、当院では医師や看護師や介護士やリハビリといった職種だけではない。清掃課、リネン課、栄養課、事務職員など富士山麓病院介護医療院で働く全職員が利用者さんと接し、『発する声』や『心の声』や『行動の声』に耳を傾けている。

薬剤でたくさんの人を救うのは大変喜ばしいことに異論はない。しかし、一人一人の『声』に耳を傾けることを薬が担うこ

とはできないと考える。やはり人がそれを担うのだ。

そして、そこには人の持っている『優しさ』が基本になければ成り立たないと考える。その『優しい』と一言でよく言われるが、具体的にどんなことがその定義に当てはまるのだろうか。

『新明解 国語辞典』 第5版で

『優しい』の意味を調べてみた。

① 声や目などの感じが穏やかで、警戒心を与えない様子だ。

② 節度・思いやりや情有有って、好ましい感じだ。

と記載されている。簡潔でわかりやすい。しかし、具体性に欠ける。もっと具体的に表現したものはないか。

その解答の一つとして、理事長が考えた認知症に対する優しい人を挙げようと思う。

○ 高齢者を『頑張ろう』と思わせるような接し方をしてあげられる人

○ 高齢者が願っていたこと、現在も願っていること、あきらめていたことなどの実現に協力してあげられる人

○ 高齢者を尊敬されるような人、

人の役に立てるような人にしてあげられる人

○ 生きていくための勇氣、目標、理由などを持たせてあげられる人

○ 昔の出来事を幸福な出来事にしてあげられる人

○ 心の傷を修復してあげられる人

○ 不安、淋しさ、恐れなどを取り除いてあげられる人

○ 変化のある生活をさせてあげられる人

○ 注意・命令・文句・叱責・愚痴・嫌味などを言わない人

○ できないことをさせて、恥をかかせない人

○ 元氣になられた高齢者に感謝し、自分の手柄にしない人

○ 高齢者の「未来」「現在」「過去」を一緒に創ってあげられる人

ここに列挙したものは一つの考え方である。

開院から現在までスタッフ全員がこの考え方を理解し実践し、そのような『優しさ』を持って接していこうと日々努力し邁進している。

今後、日本はさらに高齢者の多い国となる。今より少しでも『優しさ』を持った自分になれるよう精進したい。

最後に、この『優しさ』という言葉は世の中に多くあふれている。ここで読者に聞きたい。

「自分にも優しくしていますか？」

これを読んでいるあなたも誰かの大切なかけがえのない人。

そのことが実感できないこともあると思う。ましてや、新型コロナウイルス感染症蔓延により、ソーシャルディスタンスが叫ばれるようになり、心の距離も人と人との物理的な距離と同じように離れたように感じるかもしれない。

しかし、勘違いしてはいけない。たしかに人との距離は離れたかもしれない。だが、気持ちの距離まで離してはいけない。それは自分自身に対してもだ。

あなた自身にも『優しく』してあげられなければならない。自分が好きになれない自分にならないように。

## 介護報酬の改訂から

感じたこと

管理栄養士 伊藤 穂波

私が富士山麓病院介護医療院に入職してから約一年が経ちました。前職では当施設より入院が多いこともあり、管理栄養士一人に対し約五十名の栄養管理を行っていました。当施設では全ての利用者さんを対象とするため、名前と顔、食事内容を一致させることに苦労しました。一方で長期的に利用者さんの経過を追うことができ、栄養状態の改善を実感できるため、やりがいを感じることができています。

今年度、介護報酬の改訂があり、栄養関連においても大きな変化がありました。今回の改訂で栄養マネジメント加算が廃止となり、栄養ケア・マネジメント（注）が基本サービスとして位置付けられました。その他、当施設では算定できていません

が、栄養マネジメント強化加算の新設やモニタリング時の評価項目の追加といった変更点があります。

改訂内容を確認した時、栄養ケア・マネジメントの必要性が評価されていると同時に細かく評価・記録する点が増え、ケアの質の向上が求められていると感じました。しかしながら、この原稿を書くにあたり自身の業務を振り返ってみると、書類作成の多さを言い訳に「充実した栄養ケアを実施している」というには不足のある状態であると思いました。

私が医療・福祉の管理栄養士を志した時、体重や検査値といった数字だけでなく、生活背景や性格を含め、患者さん一人一人をみることでできる管理栄養士になりたいと考えていました。

食事の様子を観察する取り組みが充実している施設ほど、低栄養状態の中リスク・高リスク者が少ないという報告があるよ

うに、私も初心を忘れず目の前の利用者さんをよくみて、充実した栄養ケアに努めたいと思います。

全ての利用者さんに対し、適切な栄養ケアを実施するためには私一人では限界があるため、今後も他部署の方々からさまざまな情報提供していただけると助かります。まだまだ経験も浅く未熟ではありますが、今後よろしくお願ひします。

（注）栄養ケア・マネジメント  
個々人に最適な栄養サポートを他職種協働で行い、その実務遂行上の機能や方法手順を効率的に行うためのシステムをいう。



お赤飯にお吸い物、煮魚などなど

## 富士山麓病院介護医療院の「ホームページ」ご案内

当施設では認知症をご理解いただくために、これまでのノウハウを活かしたホームページを開いています。

認知症患者との接し方や認知症の状態レベル判定とその対応の仕方がわかる「NSテスト」などをご紹介します。お気軽にアクセスしてください。

<http://ninchisyo.jp>



## 産休・育休に

## 入らせて頂きます！

介護職員 小菅 友美

今現在、妊娠九カ月。産休に入る時期です。この富士山麓病院介護医療院に入職してから十六年目、二回目の産休・育休取得です。

一回目の産休・育休は役職などついていない職員だったので、特に何も気にすることはありませんでした。のんびりと妊娠期間を過ごし、出産し、子供が一歳になるまで育児をさせて頂きました。

一年半後に復職してから、利用者さんや職員が様変わりしており、とてつもない浦島太郎感に、しばらくフワフワした状態で仕事をしていたのを覚えています。

その後しばらくして、介護主任という役職を与えられました。ふさわしくあろうと努力をしてきたためか、さらに昇進し、介

護係長の役職を頂きました。数年経ち、係長の仕事に右往左往しながらもやっとな慣れてきたところでの妊娠発覚！ちようど職員が不足していたり人事異動があったりと、療養棟がバタついていたこともあり、いろいろな職員に不安を与えてしまったかなと思います。

妊娠がわかってから重いものを持ってないということで、利用者さんの移乗行為や入浴介助、普段からの仕事全てにおいて出来ないことが増え、皆さんに体力面でものすごく負担をかけてしまったと自覚しています。

そして、妊娠七カ月に入ってから切迫早産の診断を受け、自宅安静となり、何の引継ぎも出来ないままお休みに入る事になってしまいました。産休までやっておかなければ…と思っていたことの半分くらいしか準備できませんでした。何が起るかわからないのが妊娠生活だなと改めて感じました。

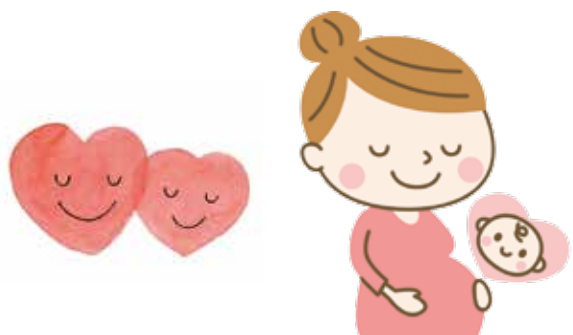
仕事をしていく中で、わたし

の体調を気にかけて、声を掛けてくれたり仕事を変わってくれた三療養棟の職員の皆さん。赤ちゃんを楽しみにしてくれている利用者の方皆さん。元気な赤ちゃんを産んで戻ってくるので待っていて下さいね。それでは復帰するその日まで…。

(二〇二一年七月)

元気な赤ちゃんを産んで帰ってきてくださいね！待っています。

(職員一同)



【ご家族からのお便り】  
感謝——介護と人生——

雁部 克彦

私の兄（七十一歳）は昨年四月八日に富士山麓病院介護医療院に入所し、早一年が過ぎました。病名はアルツハイマー型認知症。私と兄は、長い間一緒に生活していました。

そんな中、つい三〜四年前まではまさかこんな病気になるとは思いませんでした。私の身の回りには同じ病を持つ人は一人もいないためか、病名を知った時は、どうしたらよいものかと悩みました。

つい二年前のこと、兄は病気の前兆なのか、昼となく夜となく徘徊するようになり、その度に兄を探し歩くことがしばしばあり、また家の中では大声を出したり、ゴミ箱に火を付けることもありました。

お互い老いていく中、この先を考えるとノイローゼ気味にもなりましたが、いつまでも悩ん

でいてもしようがないと思ひ、介護支援をしている小山町の社会福祉協議会へ相談に行きました。

私生活のすべてを話し、解決方法を相談したところ、まずは一つ一つできることから始めましょうと答えてくれました。

その後、デイサービスに行くようになり、介護生活に入りましたが、経過が思わしくなくいろいろな病院に行きました。最終的には富士山麓病院介護医療院に入所することになりましたが、当初は点滴だけしか治療方法がなく、寝たきりでの生活でした。

担当の先生から兄の病状について診断された時、自分自身耳を疑う言葉でした。このままですと、あと二、三ヶ月しか寿命が持ちませんよと告知されました。

私自身、本当にショックでした。過去の兄とのいろいろな出来事が走馬灯のように蘇ってきました。

その後、告知をされた二、

三ヶ月が過ぎた時、兄も七十一歳を目の前にし、その人生が全うされるのかと私自身も覚悟を決めつつある中でした。週に一度、施設に様子を伺いに訪問する度に、顔色も良く日に日に元気よく過ごしていますよと声を掛けてくれました。

何ヶ月か過ぎたある日、看護師さんから寝たきりだったのが車椅子に乗れるようになりまして知らされました。

私の気持ちの中では奇跡が起きたのではと思ひました。

コロナ禍で残念ながら兄と会うことができませんが、兄の元気な姿を看護師さんやスタッフの皆さんのご努力により克明に伝えてくれ、写真や動画等での日常生活を垣間見れるようにしてくれました。

最近では、食事も自分で食べられるようになり、またスタッフの皆さんに軽い冗談を言えるようになりましたと伝えてくれました。

私は、ノイローゼ気味にもなっていたあの日々を考えると、

今は本当に良かったと思ひています。

私はいつもお世話になつてい

る看護師さんにある日、唐突に質問をしてみました。

「あなたにとつて生きがいはないですか」

すると看護師さんは「利用者さん一人一人が少しでも快復してくれ、笑顔を見た時です」と答えてくれました。

日頃、利用者さんを陰日向もなく見ていただく姿は有難く、感謝の気持ちでいっぱいになり、その姿は美しくも見えます。

今、世界中はコロナ禍で大変な時期です。医療に携わる人たちに感謝及びお礼を申し上げたいと思ひ、ペンを執りました。

私は今回の経験を通して、人は決してひとりでは生きていけないものだとなりました。

そして、年老いていく自分が少し、物悲しく思う今日この頃です。

最後になりましたが、利用者さんひとりひとりが人生を全うするまでの間、大変でしょうが、

頑張り続けてくれることを心より望みます。

スタッフ及び看護師の皆様には、どうかお体にはご自愛下さい。本当にありがとうございます。



(注)

コロナ禍のため、利用者さんとご家族の対面もままならない状態が続いています。

文中にあるように、利用者さんの様子は写真や動画でご家族にお知らせしていますが、雁部さんはこの文を通じてお兄さんに見てもらいたいと、ご自身の写真を添えられました。

2021年 レクリエーション



# 音楽祭

看護職員 諫本 綾子

六月十七日、一療養棟の音楽会が行われ、看護・介護職員の仲間が出演しました。

私はトロンボーンを吹くことになりました。どんな曲なら利用者さんが楽しめるだろうかと考え、曲を選びました。

伴奏を担当してくれる上田さんと、曲のキーと進行を確認して本番に臨みました。

陽気で明るい町田さんの司会進行は、皆の気持ちをほぐし、和ませてくれました。

まず最初に、山口さんと田中さんによるパワフルな太鼓。その後に私たちの演奏。思いがけず衣装まで用意していただきました。

トロンボーンで「夏の思い出」など3曲を演奏した後、上田さんのピアノも合わせて「ふじの山」や「みかんの花咲く丘」などを歌いました。利用者さんたちと一緒に歌って、楽しいひとときになりました。

私は地域の吹奏楽団に所属していますが、コロナ感染症の拡



大懸念のため、昨年末以降、楽器に触れる機会が持てずいました。楽団では別の楽器を担当しており、トロンボーンはかなり久しぶりに吹きました。トロンボーンは動きが見える楽器なので、利用者さんにも大変喜んでいただけ、とても良かったと思いました。

このような機会をいただき、ありがとうございました。



(注)  
例年は全体で行われていた音楽会ですが、六月二十三日に二療養棟、二十五日に三療養棟と各階に分かれて行われました。  
今はコロナの影響で、外部のゲストをお招きすることができません。少しでも楽しい時間を過ごして欲しいとの思いから、職員による音楽会となりました。





# 夏祭り

経営企画課 長田 尚久



今年も無事に夏祭りを開催することができました。  
 去年に引き続きコロナ禍での開催となったため、八月三日に一療養棟、四日に二療養棟、五日に三療養棟と、三日間に分けて行いました。  
 レクリエーションホールが夏祭り風の飾り付けで彩られ、ホールの一角には屋台を模した飲食コーナーを設けました。  
 祭り囃子が流れる会場で、ハッピーに身を包んだ職員が利用者さんをお出迎え。  
 お化粧をして浴衣を着た利用者さんや、ねじり鉢巻きにうちわを持った利用者さんなど、この日を精一杯楽しむために気合が入っていました。

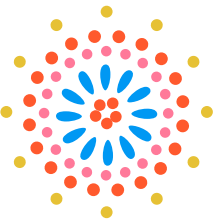
利用者さんが集まったところで司会が音頭を取り、ついに富士山麓病院介護医療院の夏祭りがスタートしました。

最初は地域の和太鼓チームに所属している職員による太鼓の演舞、ドンドンドンと鳴り響く太鼓の音に利用者さんも手拍子をしたり、聞き入ったりと心に響いている様子でした。

その後も、お神輿を担いだり、音楽に合わせて竹太鼓をたたいたり、盆踊りを踊ったりと、これぞ夏祭りと言わんばかりに楽しむ利用者さんたち♪

疑似屋台からは力キ氷とたこ焼きを利用者さんたちの手元にお届けしました。

キンキンに冷えた力キ氷を物凄い勢いで召し上がったリ、ノンアルコールのビールも提供される姿は、普段と違った刺激で笑顔にあふれていました。



## 【施設紹介】①

## レクリエーションホール

当院は一九七九（昭和五四）年に「御殿場高原病院」として開設しましたが、二〇一一（平成二三）年には「富士山麓病院」と名称を変更しました。

開設以来「認知症の改善、進行を止めることを目標とし、改善したら家へ帰す」方針で一貫して努力しております。

国は二〇一七年に療養病床の削減を図って、新たに介護医療院（医療、看取り、生活の場としての機能を兼ね備えた）の創設を決定しましたが、当院も当初からの方針に合致しているとして二〇二〇年四月、「富士山麓病院介護医療院」へ転換、外来の機能は「富士山麓クリニック」で対応することとしました。介護医療院としては生活の場としての療養室（プライベートの保護）、十分な広さのあるレクリエーションホールなどの義務付けがあり、一九年から施設改修工事を進めてきました。

折角の新しい施設がコロナ禍で充分活用されない現状は残念ですが、コロナの一日も早い収束を願いながら、以下に順次紹介していきます。



レクリエーションホール

写真に見える列柱の右側がホール、柱の左側でピアノから奥につながる部分が「憩いスペース」です（下段の写真）。

憩いスペースでは、利用者さんが中庭を眺めながらご家族と面会、歓談できるようになっています。



憩いスペース

テーブルと椅子が並んでいる手前には喫茶コーナーのカウンターがあり、左側に並んだ三つの喫茶ルームを含めて全体を「桂花カフェ」としました。

桂花は「もくせい」のこと、普通は「木犀」と書きますが、キンモクセイ、ギンモクセイなどがあります。

左側に並んだ「三つの喫茶ルーム」については、次号で詳しく触れることにしましょう。

以前はレクリエーションホールに接して「倉庫」がありましたが、そこを整備して「展示室」としました。

これまで倉庫にはたくさんのお雛さまや武者人形がしまわれていました。桃の節句や端午の節句には陳列されますが、収蔵されている人形のうち、並ぶのはほんの一部だけでした。

ほとんどが利用者さんのご家族から寄贈されたものです。



展示室兼カラオケルーム

それらの中には年代物の貴重な人形もあって、多くが倉庫の中でホコリをかぶっているのもったいないと、常時展示することにしました。

御殿場あれこれ  
①

「御殿場」の由来は？

新シリーズは当院の所在地、地名の詮索から始めましょう。

御殿場の前にまず「御殿」ですが、今もっとも詳しい『日本国語大辞典』（小学館 全二〇巻）にはこうあります。

「身分の高い人の邸宅を敬っていう語。造りが立派で豪華な邸宅」。そして立派な御殿に住む人が「殿様」というわけです。

「御殿」が付く自治体は静岡県御殿場市ですが、市内の町名に御殿が付く例はたくさんあります。それらはほとんど徳川家康と歴代将軍が遊猟の施設を設けたことに由来しています。

埼玉県越谷市御殿町（ごてんちょう）は家康と2代秀忠がしばしば鷹狩のために訪れた「越ヶ谷御殿」の跡ですし、東京都武蔵野市の御殿山（ごてんやま）は3代家光が遊猟の際に用いる施設を置いたことから発

した地名だそうです。

\*

ところで我らが御殿場です。市が開設しているデジタルミュージアム「御殿場資料館」には「地名の由来は徳川家康が最晩年に市内御殿場の地、現在の吾妻神社から県立御殿場高等学校付近に隠居所となる御殿の造営を命じたことに由来します」とありました。

ところが、市の観光交流課が観光協会と共同で発行している『御殿場市観光ガイド 四季でつづる御殿場日記』には「徳川家康公が駿府と江戸の中間に休憩・宿泊のための『御殿』を作ったことから『御殿場』の地名が生まれました」とあります。「隠居所」と「休憩・宿泊のための御殿」ではだいぶ違います。そこで「御殿場資料館」に電話し学芸員さんに伺いました。

それによると「隠居所」とする決定的な史料はないけれど、いわば状況証拠からの推定だとのこと。夏も冷涼で、熱帯夜と無縁な御殿場はなるほど隠居所向きかもしれません。

江戸と駿府を往復するには東海道（小田原・箱根・三島・沼津）を通るのが普通で、ガイド

の「駿府と江戸の中間」には無理があるように思います。以前からあったのは、家康の死後に久能山から日光に改葬する際、仮御殿を設けた場所が御殿場になったとする説です。

前掲『日本国語大辞典』やインターネットの事典「ウィキペディア」が「遺体を久能山から日光に移送する際に仮の御殿を建てて遺体を安置したところから御殿場という地名は生まれた」と書いています。

しかし改葬の際は、駿府から現在の富士市、三島、小田原を通ったようで、大辞典やウィキペディアの記述は疑問です。それも実際に遺体を動かしたかどうかはナゾで、久能山東照

宮では「移したのは神霊で墓は今もここ」と主張しています。

\*

いずれにせよ、決め手になる史料・記録は残っていないため「未完に終わった家康の隠居所」を御殿場の語源と考えるのが妥当なところでしょうか。

写真は吾妻神社境内にある「御殿場発祥の地」の碑。揮毫した勝間田清一氏は御殿場高校の前身・御殿場実業学校の卒業生で、のちに日本社会党の委員長、衆議院副議長も務めました。



撮影：長田尚久（経営企画課）

（内藤 真治）



怒りをエネルギーにして  
未開拓の地に乗り込んだ女神

## ココ・シャネル

常務理事 松下 英美

第一次世界大戦の最中、シヤネルの服は斬新さと実用性で、おしゃれな女性たちの心をつかんだ。

そこへ事件だ。

恋人であり、パトロンでもあった男がイギリス貴族の娘との結婚を発表。その後、男たちは彼女を恋愛の相手としてのみ求め、妻としては選ばなかった。シヤネルにとって信じられるものはもう仕事だけになった。

八七年の生涯——怒りから生まれた精神力が彼女の底知れぬパワーとなった。



ココ・シャネル(1883～1971)は孤児院や修道院で育ったが、帽子づくりから洋服のデザイナーに進出した。百年を超える高級ブランド「シャネル」の創始者。

### ——ココ・シャネルの人生を魅了する名言——

- 美しさは、あなたがあなたらしくいると決めた時に始まる
- 醜さは許せるけど、だらしなさは絶対に許せない
- この世でいちばん素晴らしい色は、あなた自身を輝かせる色

### 編集後記

表紙写真はリハビリの一環として「折り紙のくす玉」作りに励む利用者さんです。折り紙の好きな方と作業療法士がお茶を飲みながら楽しく進めています。ご家族の了解も得た上で、掲載させていただきました。

六月には認知症の治療薬承認が大きな話題になりました。でも薬だけで万事解決とはいかないはず。清水隆志先生に改めて「当院が目指す優しさ」について書いていただきました。

管理栄養士の伊藤穂波さんの文章からは、栄養ケアの面から健康を支えてくれる大事なお仕事であることが伝わります。

まだまだ収束の見通しが立たないコロナ禍で不十分でしたが、音楽会や夏祭りを楽しむみなさんの様子を写真で特集しました。

新装なった「桂花カフェ」が一日も早くにぎやかに活用される日を楽しみたいものです。

(内藤 真治)